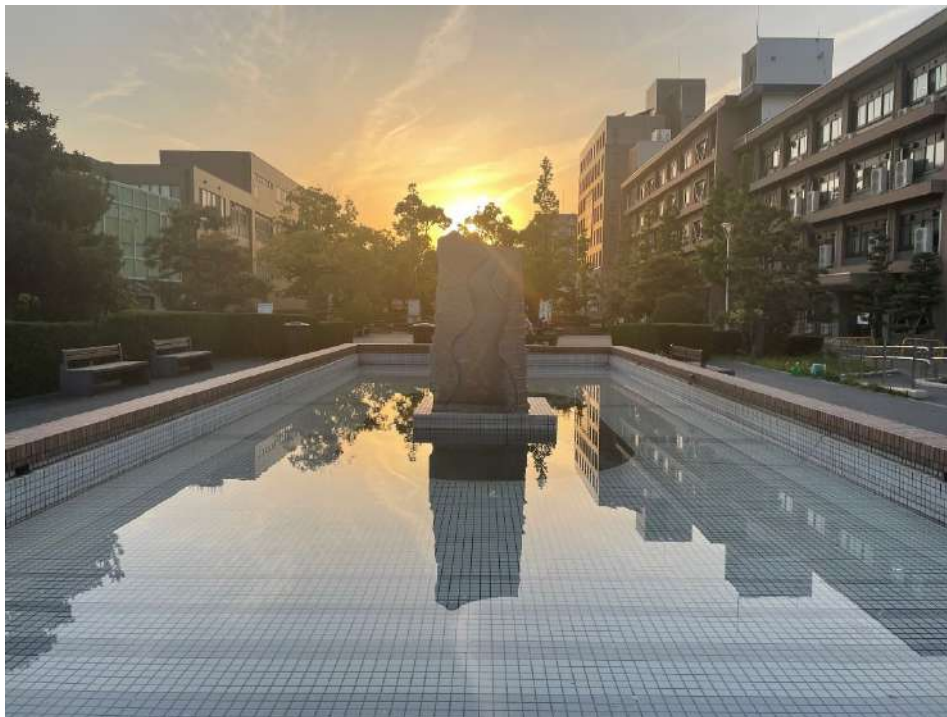


【日本の大学】第97回—香川大学：地域社会をリードし、共生社会を実現

香川大学は、四国香川県の県庁所在地高松市に本部を置く県内唯一の国立大学である。大戦後の1949年に、高松経済専門学校を母体とした経済学部と、香川師範学校、香川青年師範学校を母体とした学芸学部の2学部体制で発足した。その後、農学部（1955年）、法学部（1981年）、工学部（1997年）が加わった。2003年には香川医科大学と統合して医学部が誕生した。2018年には大幅な学部改革を実施し、工学部を母体に創造工学部を開設、経済学部を1学科5コースに改組、医学部には臨床心理学科を新設した。現在は、6学部と7研究科において、約5600人の学部学生と約800人の大学院生が学ぶ総合大学となっている。

大学の理念としては、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する」と謳っている。教育目標としては「豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた課題探究能力を備え、国際的に活動できる人材を養成する」ことを掲げている。



噴水広場

基礎的学力・学習法を用意

以下、香川大学のホームページなどを参考に、大学の現状や歴史を概観していこう

大学では、各学部での専門教育を受けるための学力や学習方法を身につけるため、1年次の間、全学共通科目を中心に学習する。具体的なテーマと取り組みながら、情報整理の方法、レポートの書き方、発表のコツ、状況に応じた日本語の使い方などを学ぶ「大学入門ゼミ」や、早期に身につけるべき情報リテラシーを学習するために開講される必修科目、地域で生活する市民としてよりよく生きるための倫理観や責任感を身につける「ライフデザイン」、心身の健康を生涯にわたり、自立的、継続的に養うための「健康・スポーツ」科目などが用意されている。

学芸学部の前身は、明治初期の1874年に高松に設立された師範成章学校であり、小学校の教員養成が始まった。2年後に香川県師範学校に改称されるなど、何度か名称や内容が変更されながら存続した。これとは別に1925年に県立実習補習学校教員養成所が設立され、その後県立青年学校教員養成所と改称された。この二つの学校を母体として香川大学設立の際に、学芸学部へとつながった。

1966年には教育学部に名称を変更するとともに、特別教科（理科）教員養成課程と幼稚園教員養成課程を設置した。その後、大学院教育学研究科（修士課程）の設置（1995年）などを経て、1998年には教育学部の課程を、学校教育教員養成課程と人間発達環境課程に改組された。このうち人間発達環境課程は2018年3月に学生の募集を停止し、現在は学校教育教員養成課程の中に、幼児教育コース、小学校教育コース、中学校教育コースの3コースを設けている。



大学風景

官立高等商業学校が淵源

経済学部の淵源は1923年に創立された官立高松高等商業学校である。1944年には高松経済専門学校に改称され、同校を母体に香川大学設立の際、経済学部となった。大学では、大学の創立年を高等商業学校が創設された1923年に置いている。

経済学部は経済学科のほか、1965年に経営学科を新設、79年には大学院経済学研究科（修士課程）を、95年には、経済学科、企業経営学科、情報管理学科、地域社会システム学科の4学科に改組され、98年には経済、経営システム、地域社会システムの3学科となった。2018年になって、これを大幅に改めて経済学科1学科の下に「経済・政策分析コース」「会計・ファイナンスコース」「経営・イノベーションコース」「観光・地域振興コース」「グローバル社会経済コース」の5コース制となった。経済、経営、金融などの基盤的経済学分野のほか、観光を起点にした地域振興やグローバル化時代に活躍する課題解決能力の高い人材の育成に取り組んでいる。

法学部は1981年に、経済学部には置かれていた経済法学コースを母体として設置された。行政・司法と企業法務の2コース制であった。1985年には大学院の法学研究科（修士課程）を設置、1995年には、夜間主コースを設けるとともに、法律、企業法務、公共政策の3コース制に再編成した。2016年には卒業生の進路との関係を明確にするために、法律職コース、公共政策コース、企業法務コースの3履修コースに再編している。



大学会館

農学部は、その前身をたどると 1903 年に設置された木田郡立乙種農学校にさかのぼる。開校時の定員は 200 名だったという。3 年後に香川県立農林学校へ移管され、その後、二度、改称された。1950 年には香川県立農科大学となった後、1955 年に国に移管されて、香川大学の農学部となった。当初は農学科、園芸学科、農芸化学科の 3 学科だったが、その後、農業工学科、食品学科が加わった。大学院としては、1985 年に近接の愛媛大学の中に大学院連合農学研究科（博士課程）が設置され、高知大学とともに加わっている。

1998 年には、生物生産学科、生物資源食糧化学科、生命機能科学科の 3 学科に改組され、農業工学科は工学部に移管した。さらに、2006 年には以上の 3 学科を応用生物科学科（応用生命科学コース、生物生産科学コース、生物資源環境化学コース、食品科学コース）の 1 学科 4 コースに改変された。現在、4 コースは、先端生命科学、アグリサイエンス、ワールド環境、バイオ分子化学、食品科学の 5 コースとなっている。

農学部や農学研究科には、東南アジアを中心に約 10 か国から約 30 人の留学生が学んでおり、2024 年 10 月からは、留学生と日本人学生が共学する新たなコース（食と環境保全特別コース）が農学研究科に開設されるため、留学生数も増加することが見込まれている。



農学部附属農場

未来見据え、創造工学部を開設

工学部は1997年に設置された。従来の効率優先の単眼的視点から、人間、社会、人工物、自然という工学の対象を多角的視点から正しく理解し、新しい科学技術を自ら創造していく工学技術者の養成と新たな工学研究の構築を目指して設置された。学科の構成は、安全システム建設工学科、電子・情報工学科、知能機械システム工学科、材料創造工学科の4学科だった。

工学部は2018年3月に学生の募集を停止し、4月からは創造工学部が開設された。時代の変化を的確にとらえ、社会や人々のニーズにフィットしたイノベーションを創出する人材を育成するとしている。「デザイン思考」と「リスクマネジメント」の能力養成を取り入れ、未来を見据えた工学系人材教育プログラムを展開する。学部は、新しい価値の創造を目的とし、異分野との融合を図り、学際的な教育研究を行おうと1学科制を採用している。創造工学科1学科の中には、造形・メディアデザイン、建築・都市環境、防災・危機管理、情報システム・セキュリティ、人工知能・通信ネットワーク、機械システム、材料物質科学の7コースを設け、「次世代型工学系人材」に必要な能力を効率的に学修する。

医学部の前身である香川医科大学は1978年に開学した。同学部付属病院は1983年に設置されている。その後、大学院医学研究科（博士課程）の設置（1986年）、医学部看護学科の設置（1996年）をした後、2003年に香川大学と香川医科大学が統合して香川大学医学部が誕生した。医学科、看護学科に続き、2018年に国立大学として初めて臨床心理学科が設置されている。

大学院の関係では、2022年度に法学、経済学、教育学研究科の一部と工学研究科を統合して創発科学研究科（修士課程）を開設した。地域の活性化から地球規模の課題解決に至る様々なテーマに関して文系、理系の教員研究者が専門分野を超えた教育研究に取り組んでいる。医学系研究科では2020年度に臨床心理学専攻（修士課程）を開設、看護学専攻では2022年度から博士後期課程を開設している。農学研究科でも2018年度に大幅な改組を行った。



大学博物館

国際化、国際交流に関して大学では、地域に根差した国際化、国際的通用性を備えた人材育成などの基本方針をまとめている。大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応えるなどとしている。国際化のための環境整備では、海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援すること、国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一生の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進めること、多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生と学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進すること、を挙げている。

これらを具体化するために、国際交流の窓口機関としてインターナショナルオフィスを2009年に開設した。同オフィスには留学生の受け入れ、学修・生活支援を行う「留学生センター」、国際共同研究の推進、国際学会の開催を行う「国際研究支援センター」、海外留学の支援やグローバル・カフェの運用を担う「グローバルカフェセンター」を設けている。

外国人留学生数は、中国、タイなどアジアを中心に20か国余から125（うち女性56）人（2022年5月現在）である。

全体の学生数は、学部が5629（うち女性2537）人、大学院が792（同259）人である。（2023年5月現在）



春の大イベント入学式

現在の学長は第 16 代の上田夏生氏である。徳島大学医学部医学科卒、徳島大学大学院医学研究科（博士課程）修了、同大学医学部附属病院医員、同大助手、助教授などを経て、2001 年香川医科大学医学部（生化学講座）教授、2017 年、香川大学医学部長、2012 年副理事をへて 2023 年 10 月から現職。専門は生化学。

日文：滝川 進

写真：香川大学 Facebook